

令和4年度 第1回 山梨県森林環境保全基金運営協議会

- 1 日時：令和4年7月11日（月）午後2時30分～
- 2 場所：恩賜林記念館 大会議室
- 3 出席者（敬称略）
（委員）河野東、五味愛美、草野香寿恵、志村隆夫、白石則彦、新田治江、丸茂正樹、若林祐斗
（五十音順）
（事務局）信田林政部次長、鷹野林政部技監、小澤森林政策課長、上野森林整備課長、山口林業振興課長、奈良税務課長、廣瀬研究員
森林政策課企画担当（3名）
- 4 傍聴者の数 1名
- 5 会議次第
 - 1 開会
 - 2 あいさつ
 - 3 議事
 - （1）令和3年度事業の実績について （資料1）
 - （2）令和4年度事業について （資料2）
 - （3）基金の管理状況について （資料3）
 - （4）事業効果の検証について （資料4）
 - （5）その他
 - 4 閉会
- 6 議事の概要

○座長

どうぞよろしくお願ひ致します。それでは、これから議事に入らせていただきます。まず、議事の（1）～（3）については関連項目となりますので一括して議題と致します。

事務局からご説明をお願ひ致します。

○森林政策課長 資料1～3説明

○座長

ご説明ありがとうございました。

ただいまのご説明につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願い致します。

○委員

未利用材活用促進事業の実績の確認方法について伺いたい。

○林業振興課長

数量の証明については、運搬先のチップ工場等が発行する受入証明書とします。

○委員

大月市、南部町等のバイオマス発電所が発電したものは、どこに電力供給されるのか伺いたい。

○林業振興課長

既に稼働している大月市の発電所の発電量は、一般家庭の約3万世帯相当を発電すると聞いております。また発電したものは、FITの固定価格買取制度を通じて東京電力に対して売電しているため、発電したものを直接、周辺の家庭等で利用しているわけではありません。

○委員

森林体験活動支援事業についてですが、大月東小学校の活動内容にユニークなものがありますが、具体的にどのような体験でしょうか。

○森林整備課長

学校林の保存会や地元の老人クラブの方々の協力も得ながら、梅もぎ収穫体験と併せて学校林の歴史などを学ぶことが活動内容となっています。

○委員

峡南地域で開催した森林整備現場見学会において、FSC管理認証の解説をしたようですが、私が過去に別地域で体験したものは、FSC認証を取得・管理するために必要な項目を参加者がセルフチェックし、認証について再確認するというプログラムを行っていました。FSC認証面積の大きい山梨だからこそ、子供たちにもぜひ知ってほしいと思います。

○森林政策課長

本年度の現地見学会の内容について、まだ詳細なところまで決まっておきませんので、ご意見を踏まえ、プログラム等を検討していきたいと思えます。

○委員

木質バイオマスの利用促進はとてもいいことだと思えますが、ひとつ心配なこととしては、継続してチップが供給できるのかということなの思えますが、そのことについてはどうでしょうか。

○林業振興課長

今回の補助制度は、山からの搬出に際し、事業者に効率化に向けた取り組みを実施することを条件に運搬補助することとしています。そのため、数年後に補助制度がなくても、自立的に搬出が行われることを目指していますので、持続的なチップの供給体制が構築されることを事業目的としています。

○委員

令和3年度の荒廃森林再生事業の実績が少ないのですが、その原因について教えて下さい。また、令和4年度はどのように展開していくのか教えて下さい。

○森林整備課長

事業を実施する際、森林所有者と事業者間で協定を締結した上で、事業を実施するのですが、昨年の夏ごろにコロナウィルスの感染拡大により、所有者との協定締結に向けた調整が行えなかったことが、原因として大きかったと考えられます。

また、工期の長い搬出間伐の予定箇所が計画より増加し、年度内完了できなかったものが繰越されたこと、更に場所によっては、ナラ枯れ被害が拡大し、森林整備を行う事業者がそちらの対応に時間を要してしまったことも原因と考えられます。

本年度の対応としましては、協定の締結を加速化させることや、森林組合だけでなく民間の事業者にも森林整備の実施に取り組んでいただけるように働きかけを行うなど、森林整備量の増加に向けて取り組んでいきます。

○委員

木質バイオマス発電施設が県内で既に2箇所稼働していて、更に3箇所目の稼働が予定されています。未利用材を燃料として活用するという考えだと思えますが、未利用材は素材生産の副産物として発生するものなので、県内の需要に比べられるのか伺います。

○林業振興課長

県では、令和11年度までに木材生産量を増加させる目標値を定めています。その目標値のうち木質バイオマス向けの供給量を試算すると、その量で3箇所分の供給は可能と考

えています。

○座長

他に、委員の皆さんからご意見、ご質問等ございませんでしょうか。特にないようですので、それでは議事の4「事業効果の検証について」事務局からご説明をお願い致します。

○森林総合研究所 研究員 資料4説明

○森林整備課長 「里山再生事業に関するアンケート調査結果」説明

○座長

ご説明ありがとうございました。
ただいまのご説明につきまして、委員の皆様からご意見、ご質問等ありましたらお願い致します。

○委員

モニタリングの効果の検証について、下層植生が戻っているところが多いのですが、それでも、シカなどの獣害の影響を受けている状況でしょうか。

○森林総合研究所 研究員

下層植生が一度戻ったものが、しばらくしてまた減った個所があります。原因としては、時間の経過で開空度が減ったことで地表に光が当たりづらいことや、シカなどの獣害で減少した箇所も見受けられました。

○委員

「里山再生事業に関するアンケート調査結果」についてですが、調査対象はどのような住民に行っているのでしょうか。

○森林整備課長

里山事業で整備した箇所の周辺住民を対象にアンケートを実施しております。

○座長

モニタリング調査の写真を見るとよくわかることがあるので、話題提供いたします。例えば、施業前の写真を見ると、木の根が露出しているのがわかると思います。それは、降った雨などにより土壌が動くことで根が露出します。根元から離れた箇所で露出している場合は、根が地中深くではなく、横に伸びているため露出します。このような土壌が流れやすいところはヒノキの適地、土壌がたまり、水分量が多い箇所はスギの適

地と言われていています。また、木が混んでくると下層植生が育たないため、地表面を雨水とともに土壌が流れやすくなるということになります。森林に入る機会がありましたら、このような視点で見ただけであればと思います。

○座長

他に、委員の皆さんからご意見、ご質問等ございませんでしょうか。特にないようですので、それでは議事をこれで終わらせて頂きます。委員の皆様には進行に御協力いただきましてありがとうございました。それでは、進行を司会にお戻し致します。

○司会

座長、それから委員の皆様、ありがとうございました。
以上を持ちまして、閉会いたします。